

取扱説明書のダウンロードサービスは「以下のご利用条件」にご同意頂いた上でご利用下さい。

＜ご利用条件＞

本サイトに掲載している取扱説明書は、代表的な墜落制止用器具の説明書を掲載しております。

よってすべての製品の取扱説明書を掲載しておりません。

また、ご購入時の製品に同梱されている取扱説明書には、その製品独自の補足的な取扱説明書を同梱している場合もあり、購入時の取扱説明書内容と異なる場合があります。

本サイトの取扱説明書は、製品に同梱されている取扱説明書の補足的情報としてご利用ください。

また、掲載している取扱説明書は最新の内容でない場合もあります。

掲載している取扱説明書以外の取扱説明書のお取り寄せ、及び、ご質問は弊社「お問合せ窓口」までご連絡下さい。

取扱説明書

ワークポジショニング用器具

ツヨロン®

柱上安全帯*

この取扱説明書は下記の製品用です

柱上安全帯用ベルト

柱上安全帯用ロープ

補助帯・尻掛けベルト

* この取扱説明書で使用しています「柱上安全帯」とは、製品名です。



形状は一例を示します。

いつでも活用できるよう大切に保管してください

このたびは、《 ツヨロン 柱上安全帯 》をお買い上げいただきありがとうございます。本品は日本産業規格「JIS T 8165 墜落制止用器具」を基に製造したものです。

本品を正しく安全にお使いいただくため、**ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。**

なお、「4. 必ずお守りください（使用上の注意事項）」は事故を未然に防ぐためにとても大切なことで、よくご理解のうえ、ご使用ください。また、ご使用の際は、「6. 点検と廃棄の基準」に従って、点検を行ってください。取扱説明書を紛失された場合は弊社に請求してください。

本品を下記のような特殊な環境下で使用すると、性能・機能が十分に確保できないおそれがあります。

詳しくは、巻末の「お客様相談窓口」までご相談下さい。

- (1) 金属類に錆の発生しやすい海上や海岸地域
- (2) 摺動部の作動に悪影響を及ぼす可能性がある土砂などの付着しやすい現場
- (3) 繊維類の劣化が考えられる高温域の現場
- (4) 酸やアルカリの付着が考えられる現場
- (5) その他、金属・繊維類に悪影響を及ぼす特殊な環境下

もくじ

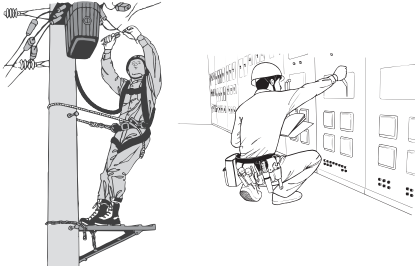
- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. 用 途 | P. 2 |
| 2. 構造および各部のなまえ | P. 3 |
| 3. 使 い 方 | P. 4 |
| 4. 必ずお守りください | P. 9 |
| (使用上の注意事項) | |
| 5. 交換のめやす(耐用期間) | P. 20 |
| 6. 点検と廃棄の基準 | P. 21 |
| 7. 保管・手入れのしかた | P. 24 |
| 8. 性 能 | P. 25 |
| 9. オプション・オーダー品 | P. 27 |
| 10. お客様相談窓口 | P. 28 |



1. 用 途

本品は、U字つり^{※1}状態でロープの張力によって、安定した作業姿勢を保持することを目的として用いるワークポジショニング用器具です。

高所作業における墜落による危険を防止するために、原則フルハーネス型の墜落制止用器具を併用してください。ただし、フルハーネス型の使用では、墜落制止時に作業者が地面などに衝突するおそれのある場合は、補助ベルトの環に胴ベルト型ランヤード^{※2}を接続することで、墜落制止用器具としてご使用いただけます。

使 用 例	用 途
	通信線工事・配電線工事・送電線工事などの作業現場で、安定した作業姿勢の保持を目的として使用します。 また、腰袋や工具などのつり下げ用ベルトとして使用します。

 柱上安全帯用ロープ（ワークポジショニング用ロープ）は、墜落制止用としては使用できません。

 柱上安全帯用ベルト（ワークポジショニング用ベルト）を墜落制止用としてお使いになる場合は、種類「胴ベルト型」と表示のあるランヤードを、補助ベルトの環に接続してください。

ただし、胴ベルト型の墜落制止用器具が使用できるのは、高さ 6.75m 以下で、墜落時に作業者が地面に到達するおそれのある場合です。

 併用する墜落制止用器具の使用可能質量*以下でご使用ください。
詳しくは、巻末の「お客様相談窓口」までお問い合わせください。

*使用可能質量（体重+装備質量）：体重と装備品全ての合計質量の最大値

 併用する墜落制止用器具の取扱説明書を併せてお読みください。
また、より適切な墜落制止用器具の選定・使用のため、厚生労働省通達「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン(平成30年6月22日付け基発0622第2号)」の併読をお奨めします。

※1：U字つり：ワークポジショニング用ロープを構造物にU字状に回し、当該ロープに身体を預けた作業状態をいいます。

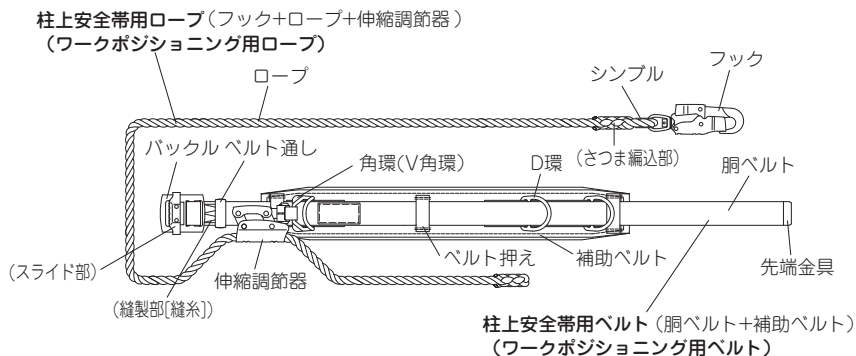
※2：ランヤード：ロープまたはストラップにフックとショックアブソーバを備え、フルハーネス（または胴ベルト）と取付設備とを接続する墜落制止用のものをいいます。

2. 構造および各部のなまえ

本品はワークポジショニング用器具です。

構造は、バックルの付いた胴ベルト、左右に環を縫い付けた補助ベルト、およびロープの長さを調節できる伸縮調節器を備えたワークポジショニング用ロープで構成されています。

柱上安全帯（ワークポジショニング用器具）の全体図（形状は一例を示します）

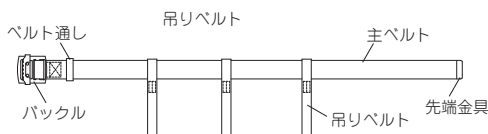


補助帯・尻掛けベルトの全体図

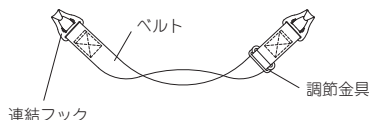
補助帯 T-565(調節型)
(主ベルト幅25mm)



T-566(固定型)
(主ベルト幅50mm)



尻掛けベルト T-561



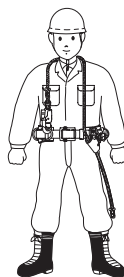
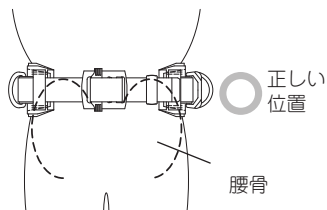
購入後は取扱説明書を読んで、構成部品がそろっていること、異常がないことをご確認ください。

構成部品に不足や異常があった場合は、巻末の「お客様相談窓口」へご連絡ください。

3. 使 い 方

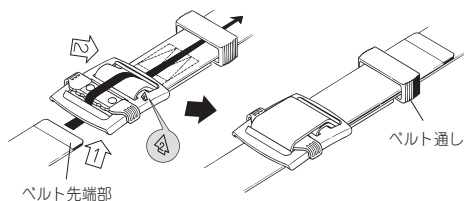
ワークポジショニング用ベルト（胴ベルト・補助ベルト）を締める位置

ワークポジショニング用ベルトは身体に合ったサイズのを腰骨の所の正しい位置に締めます。（下図参照）



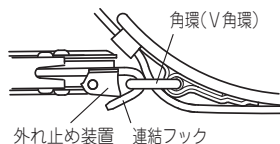
バックルの使い方

バックル裏側の刻印⑪の所にベルト先端部を通し、次に表側の刻印⑫の所に入れます。その後、ベルト通しに通します。



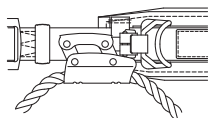
伸縮調節器を角環に接続する方法

連結フックの外れ止め装置が外側になるようにして、角環（V角環）に接続します。

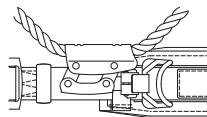


ロープ下側式もロープ上側式も、連結フックは外れ止め装置が外側です。

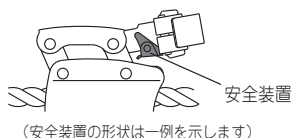
ロープ下側式



ロープ上側式



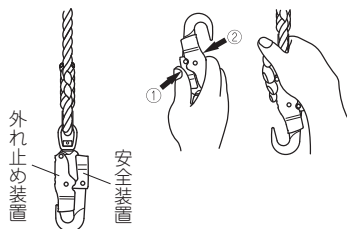
また、連結フックが安全装置付き仕様の場合は、角環（V角環）に連結後、安全装置がロック状態になっていることを確認します。



フックの操作方法

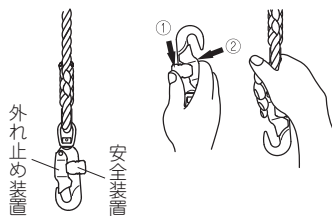
センターロック型

先ず安全装置、その後外れ止め装置を連結して握ると開口します。



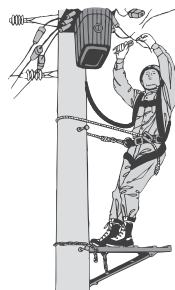
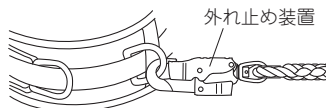
サイドロック型

先ず安全装置を矢印方向に押し、その後外れ止め装置を握ると開口します。



ワークポジショニング用ロープの使用方法

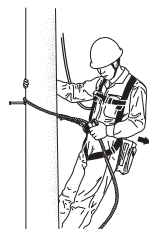
ワークポジショニング用ロープは構造物にU字状に回し、フックの外れ止め装置が内側になるようにして、補助ベルトのD環に掛けます。



ワークポジショニング用ロープの長さ調節方法（伸縮調節器の使い方）

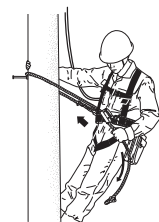
ワークポジショニング用ロープを長く使うとき

まず電柱などの構造物に手をそえて体を支えた後、伸縮調節器を操作して、ロープへの押爪の噛み込みを解除しながら腰を引き（構造物から離れ）、適切な長さになった位置で操作を止めるとロープの長さが固定されます。その後、徐々に体重を預けます。



ワークポジショニング用ロープを短く使うとき

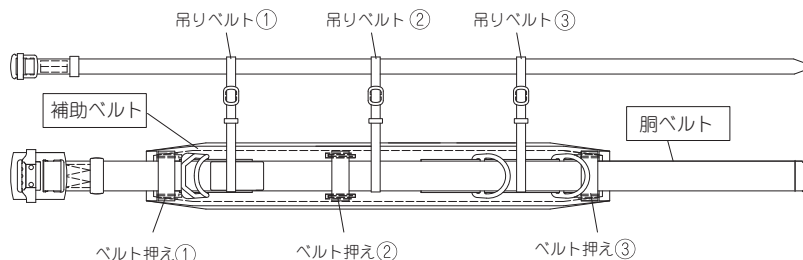
構造物に手をそえて体を支え、腰を構造物の方へ寄せながらロープの端部を握り後ろへ引きます。伸縮調節器の操作をすることなくロープの長さが縮まります。適切な長さになれば、徐々に体重を預けます。



伸縮調節器は作業時に加わる体重で押爪がロープを噛み、任意の位置で停止します。押爪に体重が加わらないような使い方、あるいは身体に伸縮調節器の側面を押しつけるなど押爪を浮かすような使い方はしないでください。

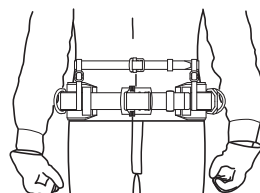
補助帯をワークポジショニング用ベルトに取り付ける方法（補助帯をご使用の場合）

- (1) 胴ベルトを補助ベルトのベルト押え②まで引き抜きます。
(2) 胴ベルトを補助帯の吊りベルト①に通し、補助ベルトのベルト押え②に通します。
(3) 順次繰り返して、ワークポジショニング用ベルトにセットします。



補助帯を装着する位置（補助帯をご使用の場合）

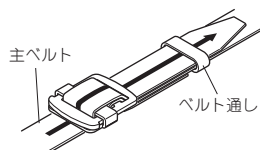
補助帯は腰のくびれ部に、ワークポジショニング用ベルトは腰骨の所に装着します。



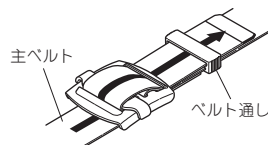
補助帯のバックルの使い方（補助帯をご使用の場合）

矢印のように通し、最後はベルト通しに通します。

T-565の場合



T-566の場合

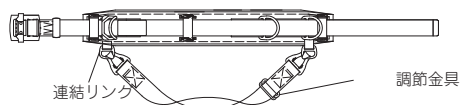


尻掛けベルトを補助ベルトに取り付ける方法（尻掛けベルトをご使用の場合）

(1)フックを補助ベルトの連結リングに
掛けます。



(2)調節金具で長さを調節します。
（取付完了）



4. 必ずお守りください（使用上の注意事項）

■ 製品の取扱いにおける図記号

	製品の取扱いにおいて、安全を確保するための 禁止行為 を示します。
	製品の取扱いにおいて、安全を確保するために必ず 行うべき行為 を示します。
	製品の取扱いにおいて、安全を確保するための 注意喚起 を示します。

■ 製品の取扱いにおける警告表示

本取扱説明書では、危害発生の頻度と程度を「危険」「警告」「注意」で示しています。

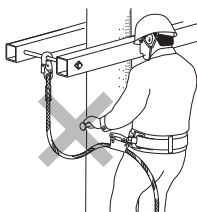


取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性が非常に高くなります。

ワークポジショニング用ロープは墜落制止用器具としては使用できません

ワークポジショニング用ロープは、U字つり状態でロープの張力によって安定した作業姿勢を保持するためのワークポジショニング用器具です。墜落制止用器具ではありません。ワークポジショニング用ロープによる1本つり状態で落下した場合、重大事故になる危険性があります。

- 墜落制止用器具を併用してください。
- ワークポジショニング用ロープで、墜落制止用器具としての1本つり使用をしないでください。



⚠ 危険

取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性が非常に高くなります。

- ❗ ワークポジショニング用ベルトを墜落制止用器具として使用する場合は胴ベルト型ランヤードを接続してください

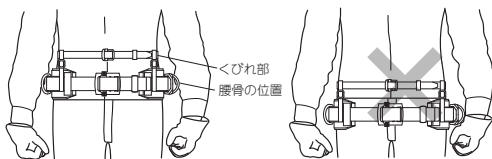
作業時には、墜落制止用として、フルハーネス型の墜落制止用器具を併用していただくことが原則ですが、フルハーネス型の使用では、墜落制止時に作業者が地面などに衝突するおそれのある場合は、補助ベルトの環に**墜落制止用器具の胴ベルト型タイプ1ランヤード**を接続して使用することができます。

- ワークポジショニング用ベルトを墜落制止用器具としてお使いになる場合は、種類「胴ベルト型」と表示のあるタイプ1ランヤードを接続してください。ランヤードの人体側フックはワークポジショニング用ベルトの環に接続し、構造物側フックは腰より高い位置の構造物に取り付けてご使用ください。
- 胴ベルト型の墜落制止用器具を使用できるのは、高さ6.75m以下で、墜落時に作業者が地面に到達するおそれのある場合です。
- その他の使用上の注意事項は、接続するランヤードの取扱説明書を必ずお読みください。

- ❗ 補助帯は腰のくびれ部に着けてください（補助帯をご使用の場合）

ランヤードを接続して胴ベルト型の墜落制止用器具として使用するとき、補助帯を腰骨の位置に着け、ワークポジショニング用ベルトを腰骨より下に緩く装着した状態で墜落制止した場合、補助帯は衝撃荷重に耐えられず破断し、ワークポジショニング用ベルトが足元に抜けて危険です。

- 墜落制止時の衝撃荷重は、ワークポジショニング用ベルトで受け止めるようにしてください。
- 補助帯を腰のくびれ部に、ワークポジショニング用ベルトは腰骨の位置に装着してください。



（注）補助帯はワークポジショニング用ベルトをずり落ちにくくすることを目的としています。

警告

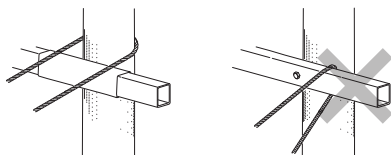
取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

❗ ワークポジショニング用ロープは堅固な構造物にU字つりしてください

弱い構造物に取り付けると、体重を預けたときに、強度不足で構造物が破損し、安定した作業姿勢を保持できないおそれがあります。

また、端が開放状態の構造物では、ワークポジショニング用ロープが移動し、抜け落ちるおそれがあります。

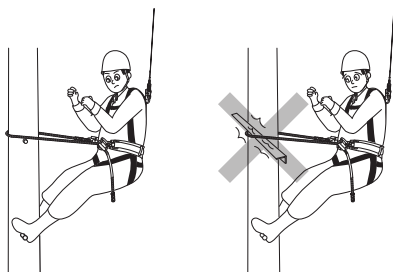
- ワークポジショニング用ロープは、構造物から抜けたり破損したりするおそれなく、ロープに体重を預けても十分に耐える堅固なものに取り付けてください。



❗ ワークポジショニング用ロープは鋭い角に触れないようにしてください

鋭い角でロープが切断するおそれがあります。

- ロープが鋭い角に触れるおそれのある所では使用しないでください。
- 鋭い角のある構造物を避けてワークポジショニング用ロープを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いて養生してご使用ください。



❗ 補助ロープ^{注3}としてご使用の場合は必要最小限のロープの有効長さでご使用ください

ワークポジショニング用ロープは、移動時の掛け替え時に使用する補助ロープとしてご使用いただけます。

- 補助ロープとしてご使用の場合、ロープの有効長さは1.3m以下をめに、必要最小限に伸縮調節器で調節してご使用ください。

^{注3}：補助ロープ：移動時において、主となるランヤードを掛け替える前に移動先の取付設備に掛けることによって、絶えず作業者と取付設備が接続された状態を維持するための長さ1.3m以下の短いロープまたはストラップです。

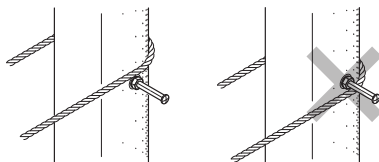
警告

取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

❗ ワークポジショニング用ロープは滑り落ちない所へ掛けてください

体重を預けた時に、安定した作業姿勢を保持できないおそれがあります。

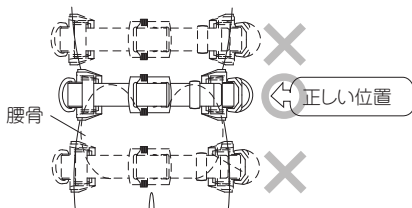
- ワークポジショニング用ロープは腰より高い位置で、滑り落ちない所に掛けてください。



❗ ワークポジショニング用ベルトは腰骨の所に締めてください

ワークポジショニング用ベルトを腰骨の所の正しい位置に締めていないと、安定した作業姿勢を保持できないおそれがあります。

- ワークポジショニング用ベルト(胸・補助ベルト)は腰骨の近くで、足部の方へ抜けない位置で、しかも胸部へずれないよう確実に装着してください。

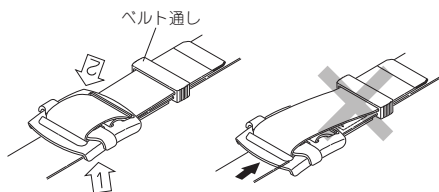


❗ 胸ベルトをバックルに正しく通してください

ベルトの通し方を間違えると、体重を預けた時に、ベルトがバックルから滑り抜けて、安定した作業姿勢を保持できないおそれがあります。

誤ってバックルの刻印⑫の所にベルトを通さず使用されると、障害物に引っ掛かるなど、バックルの先端部に矢印➡方向の力が軽く加わるだけで、ベルトが緩みバックルから抜けます。

- 胸ベルトをバックル裏側の刻印⑪から表側の刻印⑫の順に正しく通し、最後に余長部をベルト通しに通してください。





警告

取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

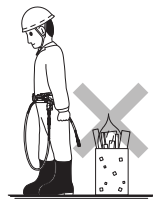
❯ 酸（バッテリー液など）・アルカリを付着させないでください

ロープなどの合成繊維部品は、酸・アルカリで溶解して、ロープなどの強度が低下し、十分な強度が得られないおそれがあります。

- 塗料などの汚れを取る場合には、強度低下をまねく溶剤は使用しないでください。

❯ 高温部に近づけないでください

ロープなどの合成繊維部品は、熱によって溶融して強度が低下し、十分な強度が得られないおそれがあります。



❗ 使用温度-25℃～50℃の範囲でご使用ください

使用温度-25℃～50℃の範囲外で使用すると、強度が低下し、十分な強度が得られないおそれがあります。また、範囲内の使用であっても、水に濡れるなどして凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部、伸縮調節器の押爪などが作動しないおそれがあります。

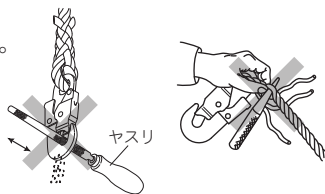
- 操作して各部に異常がないことを確認してご使用ください。

❯ 分解・改造しないでください

分解や部品の取り外し、他の部品の組み込みなどの改造は、ワークポジショニング用具としての性能を十分に発揮できないばかりか、重大事故になるおそれがありますので、絶対におやめください。

また、分解・改造された製品の性能は保証できません。

- ロープの編み直し（さつま編み加工）などしないでください。

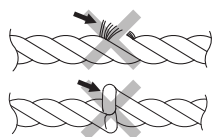


❯ 損傷やキンクのあるものは使用しないでください

ロープに損傷やキンクのあるものは強度低下しているおそれがあります。

また、ロープの撚り方向と反対方向にねじる力をロープに加えると、容易にキンクが生じます。

- ロープの振れは速やかに取り除き、極端に屈曲しないように収納して、キンクの発生を抑えてください。



警告

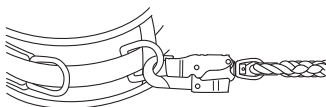
取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

❗ フックは正しく掛けてください

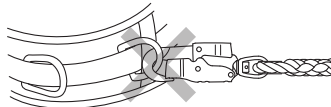
誤った掛け方をすると外れ止め装置や安全装置がねじられ、または押さえられてフックがD環から外れ、安定した作業姿勢を保持できないおそれがあります。

- フックは、曲げ荷重が加わったり、外れ止め装置および安全装置がベルトや構造物などで作動方向に押されないように掛けてください。
- フックが正しく掛かっていることを(外れ止め装置の閉じ、安全装置が構造物との接触で押されていないかなど)目視でご確認ください。

正しい例



誤った例

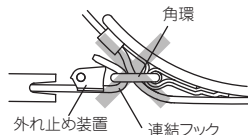
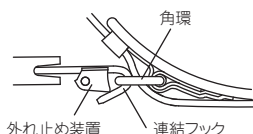


(フックの形状と掛け方は一例を示します。)

❗ 伸縮調節器は正しく接続してください

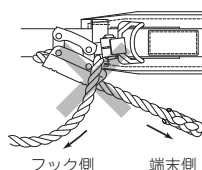
連結フックの外れ止め装置を内側(身体側)にすると、ベルトの先端金具や作業服が外れ止め装置に巻き込まれて開口し、伸縮調節器が角環から外れて、安定した作業姿勢を保持できないおそれがあります。

- 伸縮調節器の連結フックの外れ止め装置が外側になるように角環に接続し、外れ止め装置の作動を確認すると共に、作業服などが巻き込まれていないことを目視でご確認ください。



❗ ロープが伸縮調節器に絡まないようにしてください

ワークポジショニング用ロープを補助ロープとしてご使用の場合に、ロープが伸縮調節器に絡まった状態で使用されますと、伸縮調節器本体の端でロープが切断されるおそれがあります。





警告

取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。



フックや伸縮調節器に工具袋や金具が接触しないようにしてください

フックや伸縮調節器に工具袋や金具が接触すると、フックの外れ止め装置が押されて開口したり、伸縮調節器の押爪が解除され、安定した作業姿勢を保持できないおそれがあります。



D環にフックが確実に掛かっていることを目視でご確認ください

D環に作業服などがかぶさっているおそれがあります。

- フックがD環に正しく掛かっていることを目視でご確認のうえ、フックを引っ張り確実に掛かっていることをご確認ください。



一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず廃棄してください

外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは、強度低下が見られたり、作動不良を起こすおそれがあります。

- 一度でも大きな荷重が加わった(墜落制止したものなど)ものは、併用の墜落制止用器具を含むワークポジショニング用器具全体を廃棄してください。



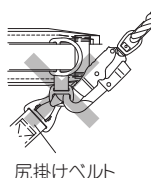
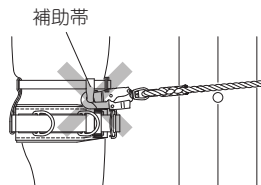
雨の日は感電にご注意ください

ベルト・ロープが雨などに濡れて水分を含むと電気が流れやすくなり、電線などに触れると感電するおそれがあります。また、電気ショートによって熔融するおそれがあります。



D環以外の所にワークポジショニング用ロープのフックを掛けないでください

強度不足で安定した作業姿勢を保持できないおそれがあります。



警告

取扱いを誤ると、死亡、または重傷を負う可能性があります。

⊘ さつま編込部に“屈曲としごき”が加わる使い方はしないでください

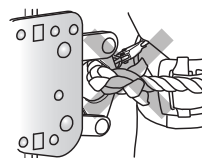
- さつま編込部に“屈曲としごき”が繰り返し加わると、さつま編込部は徐々に緩みが生じ、最終的に抜けるおそれがあります。下図のようなさつま編込部に“屈曲としごき”が加わる使い方はしないでください。

さつま編込部に乱れが生じ、最終的に抜けるおそれがある使用例

鉄塔部材でさつま編込部が屈曲され、しごかれる場合



ワークポジショニング用ロープを使用する方式の昇降用墜落防止器具の安全器でさつま編込部が屈曲され、しごかれる場合

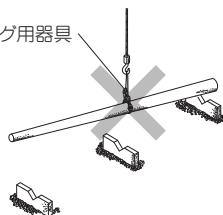


- さつま編込部に“屈曲としごき”が加わった場合は、「6. 点検と廃棄の基準」に説明しているロープのさつま編込部の乱れ・緩み・抜けの状態を十分に点検してください。
- このワークポジショニング用器具に他社製の墜落防止器具を組み合わせる場合は、十分な安全性を確認のうえ、ご使用ください。
- やむを得ず屈曲としごきが加わる使用方法をとる場合には、さつま編込部の耐久性を強化した製品も製作しておりますのでご相談ください。

⊘ 他の用途には使用しないでください

- スリングベルトなどの資材をつり上げる用具に代用するなど、他の用途で使用しないでください。

ワークポジショニング用器具



注意

取扱いを誤ると、軽傷を負ったり、物的損害が発生する可能性があります。

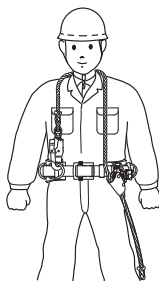
丁寧に扱ってください

丁寧に扱わないと破損する場合があります。

異物が付着したり、フックの外れ止め装置の内部に混入したりすると、ばねなどの部品が破損や変形し、作動不良を起こす場合があります。

また、ロープなどの合成繊維部品が摩耗して強度が低下します。

- 本品を引きずらないでください。
- 使用しない時はロープを肩に掛けるか、角環にフックを掛けてロープを腰につり下げて、砂・土・水の混入・接触を避けてください。
- ロープなどに結び目を作らないでください。
強度が低下します。
- 放り投げたり、物品の下積みにしたりしないでください。



同一メーカーの製品を組み合わせてください

異なるメーカーや型式のものを組み合わせて使用すると、十分な強度や機能が得られない場合があります。

胴ベルト型は、胴ベルトとランヤードの組合せで「墜落制止用器具の規格」を満たすものです。異なるメーカーや型式のものとの組み合わせは、性能が確認されていませんので、お使いいただけません。

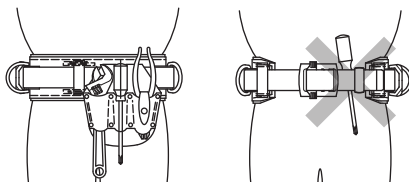
使用前には伸縮調節器に異常がないことをご確認ください

- 使用前には地上で電柱などの構造物にワークポジショニング用ロープをU字つり状態にして、体重を預け、伸縮調節器に滑りがないことをご確認ください。

工具類はペンチケース・腰袋などに入れてください

ベルトの内側にドライバーなどを差しておくと、身体に損傷を及ぼす場合があります。

- 工具類は必ず腰袋・ペンチケースなどへ入れてください。



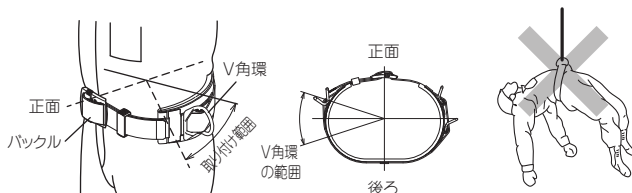
！ 注意

取扱いを誤ると、軽傷を負ったり、物的損害が発生する可能性があります。

！ 環が横が斜め後ろになるように装着してください

環の位置を腰骨より前側にすると墜落制止時に背骨に負担がかかり、身体に損傷を及ぼす場合があります。

- ワークポジショニング用ベルトにランヤードを接続して墜落制止用器具として使用する場合、補助ベルトの環はランヤードの接続状態が確認できる身体の横が、斜め後ろになるように取り付けてください。



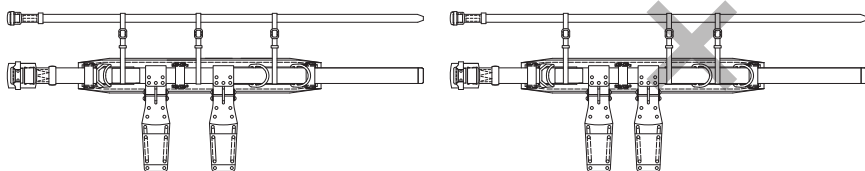
⊘ 腰袋などは補助帯につり下げないでください（補助帯をご使用の場合）

腰部が圧迫されます。

また腰袋などでD環が見えなくなるので、安全性・作業性が悪くなります。

！ 補助帯の吊りベルトはつり下げ重量のバランスを考えて配置してください（補助帯をご使用の場合）

- 補助帯の吊りベルトは、ワークポジショニング用ベルトにできるだけ等間隔で配置し、全体の重量を分散させるように取り付けてください。





注意

取扱いを誤ると、軽傷を負ったり、物的損害が発生する可能性があります。



屋外に放置しないでください

ベルトなどの合成繊維部品は、紫外線によって強度が低下します。



ベルトに摩耗箇所がないことをご確認ください

付属品との接触によってベルトに摩耗が生じる場合があります。

- 点検の際には、付属品などによって隠れている部分にも摩耗箇所がないことをご確認ください。

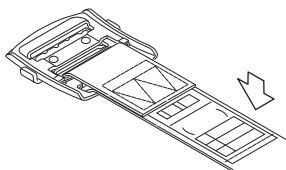
5. 交換のめやす（耐用期間）

使用頻度、使用環境や保管方法などによって異なりますが、ロープは使用開始年月から2年、ロープ以外のものについては3年をめやすとして新品と取り替えてください。

ただし、耐用期間内であっても「6. 点検と廃棄の基準」に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に該当するものは使用しないで、新品と取り替えてください。

また、一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。

- ワークポジショニング用ベルトについては、使用を開始した年月をバックル取付部に縫い付けてあるネームタグに必ずご記入ください。（下図参照）
- ワークポジショニング用ロープなどを取り替えた時は、その年月を胴ベルトのネームタグにご記入ください。
- 責任者を定めるなどの方法で確実に交換を行い、その内容を管理台帳に記録してください。



6. 点検と廃棄の基準

- 一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。
- 本品は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などによって性能が低下します。したがって、点検において**1項目でも廃棄基準に該当するものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取り替えてください。**
- 使用経験の少ない作業者は、管理者または経験者と共に使用前後の点検を行ってください。
- 責任者を定めるなどの方法で確実に点検を行い、その内容を管理台帳に記録してください。

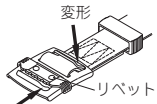
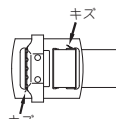
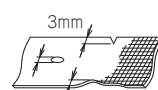
始業点検：使用する作業者が作業前に毎回行ってください。

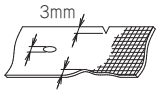
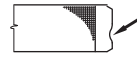
点検後、地上でワークポジショニング用ロープをU字つり状態にして体重を預け、フック・伸縮調節器の機能およびロープ・D環類などに異常がないことを確認してください。

定期点検：使用する作業者もしくは管理者・責任者が1カ月ごとに行ってください。

異常時点検：作業中、本品に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

◎：最重要点検項目 ○：重要点検項目

点検箇所・項目		点 検 方 法 と 廃 棄 基 準	始業点検	定期点検
胴ベルト・補助ベルト・主ベルト・吊りベルト・尻掛けベルト	バックル	変形によってベルトが締まらないもの。	◎	◎
		深さ1mm以上の傷や摩滅があるもの。	○	◎
		 変形 リベット 変形 変形	◎	◎
		ばねが折損または脱落してベルトが緩むもの。	◎	◎
		 キズ リベット キズ	○	◎
		リベットかしめ部にガタがあるもの。	○	◎
		全体に赤錆または著しい腐食が発生しているもの。	○	◎
ベルト	 3mm	耳または幅の中に3mm以上の損傷・焼損・擦り切れがあるもの。	◎	◎
		全体的に摩耗・毛羽立ち・著しい汚れがあるもの。(素手で確認)	◎	◎
		バックル把持部に著しい毛羽立ちがあるもの。	◎	◎

点検箇所・項目		点 検 方 法 と 廃 棄 基 準	始業 点検	定期 点検
胴ベルト・補助ベルト・主ベルト・吊りベルト・尻掛けベルト	ベルト	ベルトがねじれたままのものや、ねじれを解消してもベルトが曲がってよじれたままのもの。	◎	◎
		 3mm 付属品などに隠れる部分が摩耗しているもの。	◎	◎
		塗料などが著しく付着して、硬化しているもの。	◎	◎
		薬品が付着したもの。 薬品によって変色・溶解箇所があるもの。	◎	◎
		 先端金具が脱落してベルトがほつれているものや、変形してバックルに通らないもの。	○	◎
環 類	縫 製 部	 切断箇所 縫製部に緩みやほつれがあるものや、縫糸が摩耗したり、1個所以上切断しているもの。	○	◎
	変形	 目視で分かる程度の大きな変形があるもの。	◎	◎
		深さ1mm以上の傷や摩滅があるもの。	○	◎
ワ ー ク ポ ジ シ ョ ニ ン グ 用 ロ ー プ	三つ打ち ストランド  ヤーン	 7ヤーン以上（1リード内）の切り傷・焼損・溶融箇所があるもの。	◎	◎
		摩耗して、棒状になったもの。 赤芯入りロープにあっては赤芯が見えるもの。	◎	◎
		 キンクや型崩れがあるもの。	◎	◎
		塗料などが著しく付着して、硬化しているもの。	◎	◎
		薬品が付着したもの。 薬品によって変色・溶解箇所があるもの。	◎	◎
		 シンプル シンプルが変形したり脱落しているもの。	○	◎
	さつま編込部に屈曲・しごき荷重が加わった場合の抜け現象	 2cm以下 端末部の余長が2cm以下になっているもの。 （抜け現象が始まっている）	◎	◎
		 型崩れが進みストランドに乱れが生じ、端末部の余長が引き込まれているもの。 （抜け現象が進み危険な状態です。直ちに使用を中止してください）	◎	◎
		ロープのさつま編込部の端末は溶断処理をしておりますが、長時間の使用などによってバラけることがあります。この端末がバラける状況は強度上特に問題はありません。		
		使用開始から2年を経過しているもの。（損傷がなくても紫外線によって強度が低下します）		

7. 保管・手入れのしかた

- (1) 次のような場所で保管してください。

ア) 直射日光に当たらない所。	オ) 塵埃の少ない所。
イ) 風通しがよく、湿気が少ない所。	カ) ねずみなどの小動物が入らない所。
ウ) 火気・放熱体などが近くにない所。	キ) その他、機能・強度に悪影響を
工) 腐食性物質と同室でない所。	及ぼさない所。
- (2) 高温（50℃以上）となる場所に長時間保管しないでください。
- (3) 物品の下積みなどによって傷や変形が起こらないようにしてください。
- (4) 使用後は次のように手入れを行ってください。また、使用していない期間が続いても定期的に手入れを行ってください。

ア) フックなどの金具部品が水などに濡れた場合は、よく拭き取ってください。 付着した泥・砂・埃などは取り除いてください。可動部には時々注油してください。
イ) ベルトなどの合成繊維部品が汚れている場合は、水を含ませた布などで軽く叩いて汚れを布に移してください。その後、直射日光の当たらない風通しのよい所で自然乾燥させてください。
- (5) 責任者を定めるなどの方法で確実に保管・手入れを行い、その内容を管理台帳に記録してください。

8. 性 能

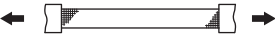
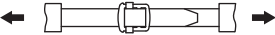
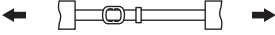
弊社総合試験所において、「JIS T 8165」に示された方法で試験を行い、性能は下記の規格値を満たしています。(新品時)

本品は主要部に合成繊維を用いていますので、使用による摩耗・紫外線劣化・その他の要因によって経年と共に強度が低下します。「6. 点検と廃棄の基準」の項目を参照して、十分に点検を行ってください。

ワークポジショニング用器具の各部の引張強度

試 験 項 目		「JIS T 8165」値 (kN)
胴ベルト		15.0以上
環 (角環・D環)		11.5以上
環取付部		11.5以上
バックル結合部		8.0以上
ロープ(ナイロン)	太さ12mm	19.0以上
	太さ14mm	
	太さ16mm	
フック		11.5以上
伸縮調節器		8.0以上

補助帯の各部の引張強度

項 目		試 験 方 法	社内規格値 (kN)
主ベルト	T-565		10.0 以上
	T-566		25.0 以上
バックル 結合部	T-565		3.0 以上
	T-566		9.0 以上
吊りベルト	T-565		2.5 以上
	T-566		10.0 以上

尻掛けベルトの各部の引張強度

項 目		試 験 方 法	社内規格値 (kN)
尻 掛 け ベ ル ト T-561	ベ ル ト 幅 45 m m		30.0 以上
	フ ッ ク		3.0 以上
	調 節 金 具		15.0 以上

9. オプション・オーダー品

補助帯



工具類をつり下げたワークポジショニング用ベルトをずり落ちにくくするために使用します。

尻掛けベルト



ワークポジショニング作業時、体重を腰と臀部に分散させることができます。

10. お客様相談窓口

この取扱説明書の内容につきおわかりになりにくいときや、製品の取扱いについてご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店、または下記のご相談窓口にお問い合わせください。

藤井電工株式会社 URL=<https://www.fujii-denko.co.jp/>

本 社 営 業 部	〒679-0295 兵庫県加東市上滝野1573番地2	TEL(0795)48-3851 FAX(0795)48-3409
東北地区 仙台営業所	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2丁目9番5号五輪ビル	TEL(022)256-7001 FAX(022)295-7423
関東地区 東京支社	〒103-0004 東京都中央区東日本橋1丁目7番2号長坂ビル	TEL(03)5821-2241 FAX(03)5821-2170
中部地区 名古屋営業所	〒460-0008 名古屋市中区栄1丁目29番19号 ヤスイビル	TEL(052)211-7781 FAX(052)211-7782
関西地区 大阪営業所	〒530-0041 大阪市北区天神橋1丁目8番13号林ボタンビル	TEL(06)6882-3355 FAX(06)6242-2170
九州地区 福岡営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目8番27号 博多駅東パネスビル	TEL(092)413-6110 FAX(092)413-6120

北海道・北陸・中国・四国・沖縄地区については、本社 営業部のご相談窓口にご相談ください。

検査合格書

本製品は、「労働安全衛生法」に定める「墜落制止用器具の規格」に基づいた製品であり、ISO9001の管理システムに基づき製造・検査しています。



藤井電工株式会社

品質管理部

検査責任者



本製品は日本の法令または規格等に基づいた仕様です。

本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート及びアフターサービス等を行っておりませんので予めご了承ください。

最新設備を備えた藤井電工総合試験所



屋外試験鉄塔群



屋内試験鉄塔



社(やしろ)工場

ISO9001/ISO14001
認証取得



ISO 9001/ISO 14001登録認証範囲:
墜落制止用器具、ワークポジションニ
ング用器具、墜落防止装置、配電・
送電・送電線工事用機材の設計・
開発、製造及び販売



藤井電工株式会社